

## 話題提供

### 若者×地域 ～「この子らを世の光に」から考える共創の場づくり～

パネルディスカッション進行役  
滋賀県立大学 地域共生センター

鵜飼 修 教授



地域社会と若者の関わり方について、滋賀県多賀町大滝地域での実践例を踏まえ、若者を**支援対象ではなく主体的な共創者として捉える**重要性についてお話いただきました。

#### (1) 糸賀一雄さんの言葉「この子らに世の光を」から「この子らを世の光に」へ視点転換

滋賀県立大学の授業でも紹介している言葉であり、まさに若者×地域の「共創」の原点だと感じている。

➡支援ではなく若者を社会の主体として捉え、共感と信頼に基づく共生関係を築くことが必要。

#### (2) 地域における若者の多様性

地元の活動に学生や若者が参加することで、関わりが生まれる。

UIターンやふるさとワーキングホリデーなどの制度も活用し、地域外から人を呼び込む「関係人口」づくり

➡単なる受け入れ対象ではなく、疲弊する地域を若者たちが再構築する担い手になってほしいという思い。

#### (3) 共創の障壁

とはいえ、協力的な集落がある一方で、伝統的な価値観から若者への理解が進みにくい地域もある。

➡世代間断絶や役割の固定化、失敗を許さない風土が共創を阻む要因である

#### (4) 共創の場づくりのヒント

●出番と居場所の両立：「やることがある」「自分の役割がある」と感じられる場が鍵



徳島県・上勝町の葉っぱビジネスで知られる横石知二さんは、高齢者の元気づくりとして「出番をつくる・空振りさせない・評価する」という3点を挙げていますが、若者にも通じるものがあると考えます。

●共感からはじまる関係性：肩書や立場を外して語り合う「余白」

➡余白を持ち対話を重ねることで、地域に新たなつながりが生まれる

●プロセスを共有する場：完成品ではなく「つくっていく過程」こそ共創

### ■多賀町大滝地域での実践の取り組み事例

<<< 地域診断法ワークショップ >>>

世代間交流という手段でワークショップにて若者と地元住民の方々が一緒に街づくりを考える。

➡実際に今の街づくりの活動に繋がっている。

東京理科大学の総勢延べ20何人の学生たちがゲストハウスのリノベーションに来てくれました。

<<< 空き家活用プロジェクト >>>

ふるさとワーキングホリデーを通じて多くの学生たちが参加し、学生と地域住民が協働でリノベーションを実施。

➡関係人口創出と将来的な移住促進につながる試み。